

事業報告目次

総括	1
1. 地域福祉活動の推進	2
(1) 「災害時要援護者福祉マップ」の充実	
(2) ふれあい相談センターによる専門相談の充実	
(3) 高齢者等を対象とした小地域での「ふれあい・いきいきサロン」の充実・発展	
(4) 地区社協（地区コミュニティ福祉部会）との連携による住民参加活動の充実	
(5) 小地域ネットワーク体制の整備	
(6) 障がい児（者）活動援助事業	
(7) 施設入所・通所児童の福祉事業の増進	
(8) 高齢者等への友愛訪問活動	
(9) 地域イベント等における機材の貸し出し	
2. ボランティア事業の推進	6
(1) 広報・啓発活動	
(2) 相談・登録・あっ旋事業	
(3) 災害ボランティア活動支援体制の整備	
(4) ボランティア保険の加入促進	
(5) 住民へのボランティア活動の理解・促進	
(6) 小・中学生の体験講座の推進	
3. 在宅福祉サービス事業の推進	8
(1) 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）	
(2) 老人ミニデイサービス事業	
(3) 生活支援配食サービス事業	
(4) 車いすの貸し出し	
4. 低所得者世帯等に対する支援事業	10
(1) 助け合い金庫貸付事業	
(2) 生活福祉資金貸付事業	
(3) 歳末見舞金支給事業	
(4) 緊急時の物資支給	
5. 子育て支援事業	12
(1) ファミリー・サポート・センター事業	
(2) 保育所運営開設の準備	
6. 広報・啓発活動の推進	15
(1) 社協だより「かけはし」の発行	
(2) 社会福祉大会の開催	
(3) ふくしフェスティバルの開催	
(4) ホームページ等による積極的な情報の提供	
7. 経営体制の強化	17
(1) 経営基盤の強化	
(2) 財政基盤の強化	
8. 介護サービス事業の効率的経営	22
(1) 介護保険事業	
(2) 受託運営事業	
(3) 障害者自立支援事業	
(4) 利用者保護及び事業の透明性確保のための苦情解決事業	
9. 指定管理者制度における施設管理経営	29
(1) 丸亀市保健福祉センターの管理充実	
(2) あやうた温泉「湯舟道」の経営充実	
10. 収益事業の充実	35
(1) 売店の効率的経営	
11. 社会福祉関係団体・運動との連携支援	37
(1) 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動の実施協力	
(2) 民生委員児童委員活動への協力	
(3) 社会福祉関係団体等の活動支援	

平成22年度事業報告

総括

わが国の経済は一部で持ち直しの兆しが見られたものの、長引く景気低迷の影響を受け雇用状況・個人消費は好転せず、依然として、我々を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

平成23年3月11日、マグニチュード9.0という未曾有の東北地方太平洋沖地震と津波が発生し、死者・行方不明者はそれぞれ1万人を超え、避難者においては福島第一原発事故を含め10万人を超える被害が報告され、国内に加え世界各地から人的・物的・金銭的支援の輪が広がっています。本会においても、直ちに義援金の募集と支援物資の受付を各コミュニティや福祉関係団体等へ呼びかける一方、宮城県石巻市災害ボランティアセンターへも職員を派遣することを計画し、災害支援活動に積極的に取り組みました。

こうしたなか、昨年度策定された地域福祉活動計画に基づき、住民と共に取り組むべき事業や活動を具現化するために役職員が一丸となり行動してまいりました。地域福祉事業においては、職員が積極的に地域に出向き、地域住民との信頼関係の構築・福祉ニーズの把握に努めました。介護事業では、中期3ヶ年計画を策定し安定した経営を目指す一方、利用者の立場に立った質の高い介護サービスの提供に努めました。本会の財政基盤の整備においては、基金の有効活用、収益事業の強化などに取り組みつつ、また、24年度に開園する保育所経営に向け、行政より派遣職員を迎え1月に保育所開設準備室を立ち上げるなど、子育て支援から介護サービス全般において「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を積極的に展開しました。

重点事業の取り組み

会費制度について

組織、事業、財政の基盤強化のための改革の一環として、懸案事項であった会費制度の見直しを行い、住民の理解促進に努めました。今後、一般会員加入率を更にアップさせると共に企業等の団体会員を増やし、住民のニーズに応えられるよう事業を展開していくことが重要であり、社協の「見える化」に向けた新しい課題に取り組んでまいります。

地域福祉活動の充実

小地域ネットワーク活動・福祉情報メール配信事業・救急医療情報キット配布事業・企業連携型見守り活動事業の4事業の充実強化に取り組み、地域に出向き地域住民と協同で「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」事業の推進にあたりました。

ファミリー・サポート・センター事業の実施

子育て中の保護者を「お願い会員」・子育てを支援する方を「まかせて会員」として会員を募り、マッチングすることにより保護者の育児の悩み・不安・ストレス等を解消し、多忙時の児童預かりや保育施設への送迎をはじめとする子育て支援事業を積極的に実施しました。

介護サービス事業の安定経営

訪問介護事業では1月より特定事業所加算を取得し、事業所体制の強化やヘルパーの技術向上を図り、利用者へのさらなるサービス向上と安定した収益の確保に努めました。通所介護事業では、土曜日の受け入れを再開するとともにクリスマス音楽会などのレクリエーションの充実に努めました。

また、国の処遇改善交付金制度による非正規職員の処遇改善に着手し、事業所基礎体制の安定に努めました。

指定管理・収益事業

丸亀市保健福祉センター、綾歌保健福祉センター及び飯山総合保健福祉センターの指定管理事業では、利用者へのサービス向上を図るとともに、管理運営面において無駄を省き経費削減に取り組みました。

丸亀ポータル場内売店での収益事業は施設改修工事が始まり、10月から仮店舗営業となり、効率的な経営を行うため、事業を縮小し、雇用形態を見直すことで収益の確保に努めました。

1. 地域福祉活動の推進

(1) 「災害時要援護者福祉マップ」の充実

もしもの災害時に要援護者の安否確認が迅速に行えるよう、民生委員児童委員等との協働で調査を年2回(7月・2月)実施し、要援護者台帳を更新しました。

【平成22年7月・平成23年2月 2回調査】 (名)

地区	一人暮らし	高齢者世帯	障がい者世帯	計
城北	405	79	19	503
城西	279	19	6	304
城乾	214	40	21	275
城坤	292	17	21	330
城南	200	4	4	208
郡家	158	13	29	200
垂水	42	0	4	46
川西	89	8	17	114
飯野	49	12	1	62
土器	270	21	3	294
広島	47	10	0	57
本島	70	42	2	114
綾歌	307	54	4	365
飯山	288	16	12	316
合計	2,710	335	143	3,188
前年度	2,620	332	104	3,056

(2) ふれあい相談センターによる専門相談の充実

住民だれもが気軽に相談できる専門相談窓口として、相談体制の充実に努めました。

相談員の構成

本 所：弁護士・司法書士・社会保険労務士
 綾歌分室：弁護士
 飯山分室：弁護士

相談開設状況

(ア) 心配ごと相談

本 所：随 時 綾歌分室：随 時 飯山分室：随 時

(イ) 専門相談

弁護士相談(開設日数36日)

本 所：毎 月 第2火曜日 午前9時～12時 67件

綾歌分室：毎 月 第3水曜日 午前9時～12時 40件

飯山分室：毎 月 第2木曜日 午前9時～12時 56件

司法書士相談(開設日数12日)

本 所：毎 月 第4火曜日 午前9時～12時 39件

社会保険労務士相談(開設日数6日)

本 所：毎 月 第3火曜日 午前9時～12時 10件

《効果》

社会情勢の変化により、数年前から年金の相談ケースが減少し、本年度末をもって社会保険労務士相談を中止することにいたしました。弁護士相談については、ニーズが高まっていることから今後も継続していきます。

(3) 高齢者等を対象とした小地域での「ふれあい・いきいきサロン」の充実・発展

閉じこもりがちな高齢者や障がい者及び子育て中の親子を対象に、外出機会を作ることによって日常生活にメリハリを持たせ、人と人とのふれあい、支え合う場づくりの推進を図りました。

「ふれあい・いきいきサロン」交流・研修会の開催

年月日	内 容	参加人数	場 所
22. 4. 9	「レクリエーションの進め方」 レクリエーションインストラクター 岩田 理香 氏	76名	ひまわりセンター
22. 9.27	「介護予防について」 丸亀市地域包括支援センター 保健師 奥村 登士美 氏	63名	

「ふれあい・いきいきサロン」活動状況

地 区	本年度	前年度
丸 亀	36ヶ所	32ヶ所
綾 歌	34ヶ所	32ヶ所
飯 山	19ヶ所	21ヶ所

「ふれあい・いきいきサロン」への貸出器具の利用状況

機 材	件数(件)	機 材	件数(件)
輪投げ	31	カラオケ	2
ダーツ	17	ストラックアウト	1
ゴルフ	11	ビンゴ	2
凡リング	2	オセロ	20
かるた	2		

《効果》

歩いて行ける自治会館等で定期的を開催することにより、誰でも気軽に参加できるふれあいのある生きがい活動の場として、重要な役割を果たしています。現在、89ヶ所あるサロンがさらに充実するために年2回研修会を実施しました。また、広報誌を活用して新規サロンの拡充にも努めることができました。

(4) 地区社協(地区コミュニティ福祉部会)との連携による住民参加活動の充実

地域福祉活動を推進していくために必要な活動費を助成することにより、住民の福祉活動への喚起と地域の組織強化を図りました。また、防災に備えて資機材の拡充を図るため、引き続き購入助成を行いました。

地区社協運営助成状況

助成金内容	本年度(円)	前年度(円)
地域福祉推進事業助成金	1,424,200	1,441,100
共同募金配分金助成金	2,470,000	2,609,000
防災資機材助成金	1,190,000	1,700,000
合計	5,084,200	5,750,100

地区行事等への参加

職員が積極的に地区行事に参加し、地区社協との連携強化に努めました。

(5) 小地域ネットワーク体制の整備

「行動する社協」として今年度から積極的に地域へ出向き、民生委員児童委員や地域での見守り活動の役割を担う福祉保健推進委員との小地域ネットワーク会議に参加しました。

高齢者や障がいを持っている方々等、何らかの支援を必要とする人たちが住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするためには、地域での福祉保健推進委員(1,351名)の見守り活動に対する意識向上を図り、各地域における小地域ネットワーク体制の整備に取り組みました。

また、地域に潜在している福祉ニーズを把握することを目的に、民生委員児童委員及び福祉ママ等の協働で、市内在住の福祉対象者の調査を実施しました。

小地域ネットワーク会議の開催地区

丸亀市内19ヶ所で開催しました。

(6) 障がい児(者)活動援助事業

愛の広場、障害者スポーツ大会等、障がいを持った方々の社会参加活動に協力し、市民への理解と啓蒙・啓発に努めました。

(7) 施設入所・通所児童の福祉事業の増進

亀山学園を訪問し、卒業生にお祝い金を贈り家庭と同じように職員と一緒に卒業の喜びを分かち合いました。

(8) 高齢者等への友愛訪問活動

一人暮らし高齢者友愛訪問花鉢プレゼント事業

市内70歳以上の一人暮らし高齢者の誕生月に、民生委員児童委員が安否確認を兼ねて訪問し、季節の花をプレゼントしました。(対象者2,348名)

高齢者友愛訪問実施状況

年月日	内 容	対 象 者
22. 7月	60歳以上在宅ねたきり高齢者友愛訪問（上期）	175名
23. 2月	60歳以上在宅ねたきり高齢者友愛訪問（下期）	162名

ねたきり高齢者実態調査（60才以上）

【平成22年7月・平成23年2月 2回調査】 (名)

	男	女	計		男	女	計		男	女	計
城北	5	21	26	郡家	4	6	10	広島	1	1	2
城西	0	1	1	垂水	0	0	0	本島	0	0	0
城乾	9	13	22	川西	7	5	12	綾歌	11	16	27
城坤	8	8	16	飯野	0	2	2	飯山	12	17	29
城南	5	6	11	土器	1	3	4	合計	63	99	162
								前年度	59	117	176

一人暮らし高齢者実態調査（65才以上）

【平成22年7月・平成23年2月 2回調査】 (名)

	男	女	計		男	女	計		男	女	計
城北	115	361	476	郡家	38	130	168	広島	20	48	68
城西	58	230	288	垂水	16	39	55	本島	14	65	79
城乾	52	173	225	川西	38	79	117	綾歌	64	179	243
城坤	84	335	419	飯野	13	42	55	飯山	95	235	330
城南	59	159	218	土器	62	222	284	合計	728	2,297	3,025
								前年度	679	2,230	2,909

《効果》

高齢者ならびに家族とのコミュニケーションが図られ潜在的ニーズの掘り起こしに繋がりました。

(9) 地域イベント等における機材の貸し出し

市内の団体等が行う地域振興を目的としたイベントに機材の貸し出しを行いました。

【1回5日間限度】貸し出し延べ件数99件

機材名(1回につき2,000円)	件 数	機材名(1回につき1,000円)	件 数
お好み焼き鉄板	10	綿菓子機	20
フライヤー	8	ポップコーン機	26
		かき氷機(電動・手動)	25
		やきいも機	6
		たこ焼き機	4
(利用料収入合計)36,000円	18	(利用料収入合計)81,000円	81
前年度 26,000円	13	前年度 70,000円	70

2. ボランティア事業の推進

(1) 広報・啓発活動

社協広報誌「かけはし」を活用し、ボランティアセンターの役割、活動の内容、市民に身近な講座への参加を呼びかけ、ボランティア活動の普及啓発に努めました。

(2) 相談・登録・あっ旋事業

丸亀ボランティア協議会に委託し、専任のボランティアコーディネーターが相談・登録・あっ旋に関わり、各ボランティア活動の把握に努め、活動の拡大を図りました。

相談開設状況

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時（祝日を除く）

相談及びあっ旋状況

区分	項目	件数				内容
		相談	前年度	斡旋	前年度	
ニーズ相談	個人	73	99	62	90	病院送迎・託児ボランティア 介護ボランティア・講師派遣等
	団体	104	116	101	114	
ボランティア相談	個人	91	70	87	61	手話を習いたい・ボランティア活動内容が知りたい・特技を生かした活動等
	団体	13	13	13	13	

個人ボランティア登録状況

区分	人数	区分	件数	内容
登録者	男 19	活動件数	730	運転ボランティア 福祉の店・秋寅の館の当番 事務ボランティア 秋寅の館ミニデイサービス 託児ボランティア等
	女 35			
前年度	男 24			
	女 39			
登録者活動数	3,799	リフトカー利用件数	49	イベント参加送迎 病院送迎 他

《効果》

専任のボランティアコーディネーターが、ボランティア希望者・要望者より十分な聞き取りを行いスムーズなコーディネートを行いました。

(3) 災害ボランティア活動支援体制の整備

災害時における対応とボランティア活動への理解を市民に広く周知し、体験講座を開催することにより、専門化の指導により身近な道具を使った対処方法を習得することができました。地域においては、共同募金の配分を受け、ソフト面で防災の支援にあたりました。

また、3月11日発生のも未曾有の東北地方太平洋沖地震に対し、県社会福祉協議会との協議により、4月に宮城県石巻市災害ボランティアセンターへ職員の派遣を決定しました。

(4) ボランティア保険の加入促進

安心してボランティア活動ができるよう、ボランティア活動保険や、行幸用保険などの加入を促進しました。

ボランティア保険の加入状況

区 分	人 数	団 体 数
団 体	1,155名	46団体
個 人	2名	
行 事	1,151名	14団体
計	2,308名	60団体
前 年 度	2,478名	52団体

(5) 住民へのボランティア活動の理解・促進

ボランティア活動に興味・関心のある方を対象に、活動へのきっかけづくりのため、初歩講座として気軽に参加できる講座を開催しました。

「子育て編」ボランティア講座の開催

年月日	内 容	参加人数	場 所
23. 3.27	【すくすく子育て講座】 講座 「意識で変えよう脳回路」 精神対話士 植山祐子 氏	17名	ひまわりセンター

(6) 小・中学生の体験講座の推進

こどもふくしセミナーの開催

小学生を対象に、もしもの災害時に子供たちが自分にできる被災復旧活動を親子で体験することによって、共に支え合い、助け合うことの大切さを学び、それによって地域福祉活動やボランティア活動の必要性について考えるきっかけとなりました。

年月日	内 容	参加延人数	場 所
22. 7.24	【子どもふくしセミナー】 もしもの災害時に、子どもたちが自分にできる被災復旧活動を体験する ・応急処置&移動介助 ・テント張り ・飯盒炊飯とカレーライス作り ・水消火器&バケツリレー ・土のう作り	親子10組	畦田キャンプ場

中学生ワークキャンプの実施

市内の中学生を対象に、施設での体験を通じて社会福祉への理解と関心を高めるために夏休みに開催しました。

年月日	内 容	参加人数	場 所
22. 8. 6 ~ 8. 7	知的障がい者施設での体験学習(夏祭りのお手伝い)	8名	社会福祉法人うぶすな会 通所授産施設うぶすな園

2. ボランティア事業の推進

(1) 広報・啓発活動

社協広報誌「かけはし」を活用し、ボランティアセンターの役割、活動の内容、市民に身近な講座への参加を呼びかけ、ボランティア活動の普及啓発に努めました。

(2) 相談・登録・あっ旋事業

丸亀ボランティア協議会に委託し、専任のボランティアコーディネーターが相談・登録・あっ旋に関わり、各ボランティア活動の把握に努め、活動の拡大を図りました。

相談開設状況

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時（祝日を除く）

相談及びあっ旋状況

区分	項目	件数				内容
		相談	前年度	斡旋	前年度	
ニーズ相談	個人	73	99	62	90	病院送迎・託児ボランティア 介護ボランティア・講師派遣等
	団体	104	116	101	114	
ボランティア相談	個人	91	70	87	61	手話を習いたい・ボランティア活動内容が知りたい・特技を生かした活動等
	団体	13	13	13	13	

個人ボランティア登録状況

区分	人数	区分	件数	内容
登録者	男 19	活動件数	730	運転ボランティア 福祉の店・秋寅の館の当番 事務ボランティア 秋寅の館ミニデイサービス 託児ボランティア等
	女 35			
前年度	男 24			
	女 39			
登録者活動数	3,799	リフトカー利用件数	49	イベント参加送迎 病院送迎 他

《効果》

専任のボランティアコーディネーターが、ボランティア希望者・要望者より十分な聞き取りを行いスムーズなコーディネートを行いました。

(3) 災害ボランティア活動支援体制の整備

災害時における対応とボランティア活動への理解を市民に広く周知し、体験講座を開催することにより、専門化の指導により身近な道具を使った対処方法を習得することができました。地域においては、共同募金の配分を受け、ソフト面で防災の支援にあたりました。

また、3月11日発生のも未曾有の東北地方太平洋沖地震に対し、県社会福祉協議会との協議により、4月に宮城県石巻市災害ボランティアセンターへ職員の派遣を決定しました。

(4) ボランティア保険の加入促進

安心してボランティア活動ができるよう、ボランティア活動保険や、行幸用保険などの加入を促進しました。

ボランティア保険の加入状況

区 分	人 数	団 体 数
団 体	1,155名	46団体
個 人	2名	
行 事	1,151名	14団体
計	2,308名	60団体
前 年 度	2,478名	52団体

(5) 住民へのボランティア活動の理解・促進

ボランティア活動に興味・関心のある方を対象に、活動へのきっかけづくりのため、初歩講座として気軽に参加できる講座を開催しました。

「子育て編」ボランティア講座の開催

年月日	内 容	参加人数	場 所
23. 3.27	【すくすく子育て講座】 講座 「意識で変えよう脳回路」 精神対話士 植山祐子 氏	17名	ひまわりセンター

(6) 小・中学生の体験講座の推進

こどもふくしセミナーの開催

小学生を対象に、もしもの災害時に子供たちが自分にできる被災復旧活動を親子で体験することによって、共に支え合い、助け合うことの大切さを学び、それによって地域福祉活動やボランティア活動の必要性について考えるきっかけとなりました。

年月日	内 容	参加延人数	場 所
22. 7.24	【子どもふくしセミナー】 もしもの災害時に、子どもたちが自分にできる被災復旧活動を体験する ・応急処置&移動介助 ・テント張り ・飯盒炊飯とカレーライス作り ・水消火器&バケツリレー ・土のう作り	親子10組	畦田キャンプ場

中学生ワークキャンプの実施

市内の中学生を対象に、施設での体験を通じて社会福祉への理解と関心を高めるために夏休みに開催しました。

年月日	内 容	参加人数	場 所
22. 8. 6 ~ 8. 7	知的障がい者施設での体験学習（夏祭りのお手伝い）	8名	社会福祉法人うぶすな会 通所授産施設うぶすな園

4．低所得者世帯等に対する支援事業

(1) 助け合い金庫貸付事業

公の制度等の対象とならない世帯に対し、本会が独自に貸付を行い自立更生に向けた支援を行いました。

区 分	本年度		前年度	
	件 数	金額 (円)	件 数	金額 (円)
助け合い資金	19	520,000	7	210,000

(2) 生活福祉資金貸付事業

市内の低所得者、高齢者、障がい者世帯を対象に必要な資金を貸し付け、経済的自立と生活意欲を高め、民生委員児童委員と連携し貸し付け世帯の自立更生に努めました。

(相談407件)

区 分	本年度		前年度	
	件 数	金額 (円)	件 数	金額 (円)
総合支援資金	50	21,953,041	11	6,123,646
教育支援資金	9	11,188,000	3	3,491,000
福祉資金	9	8,652,500	4	4,579,000
緊急小口資金	77	5,326,000	46	3,700,000
不動産担保型生活資金	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金	0	0	1	80,000
合 計	145	47,119,541	65	17,973,646

《効果》

雇用情勢の回復が依然として見込めず、離職世帯が急増する状況において、生活福祉資金貸付制度が平成21年10月に大幅に改正されたことにより相談件数が昨年度と比較し大幅に伸び、それに連動して貸付件数も倍増しました。

(3) 歳末見舞金支給事業

生活困窮世帯等の調査を実施し、歳末たすけあい運動に寄せられた募金を、見舞金として給付し、生活の安定に寄与しました。

生活困窮世帯

(平成22年12月調査)

	世 帯 数	人 数
生 活 困 窮 世 帯	202 世帯	404 名
前年度	198 世帯	410 名

在宅ひとり親児童

(平成22年12月調査)

	世帯数	人数
在宅ひとり親児童	43世帯	70名
前年度	48世帯	81名

施設入所者(市内出身者)

(平成22年12月調査)

区分	施設数	人数
身体障害者更生援護施設	10施設	66名
老人施設	6施設	22名
児童福祉施設	8施設	35名
知的障がい者援護施設	18施設	162名
精神障がい者施設	7施設	40名
特別支援学校・聾学校児童生徒	6施設	77名
その他	11施設	120名
合計	66施設	522名
前年度	64施設	518名

《効果》

効果的な見舞金の配分に努めました。

(4) 緊急時の物資支給

区分	本年度	前年度
緊急援助物資の支給	28件	31件

《効果》

制度のはざ間に介在する対象者に対し、物資を支給することにより公的給付までの期間の生活の維持に寄与しました。

5 . 子育て支援事業

(1) ファミリー・サポート・センター事業

丸亀市から事業を受託し、7月から飯山総合保健福祉センターに丸亀市ファミリー・サポート・センターを開設しました。

この事業は会員同士が育児に関する相互援助活動を行い、仕事と育児を両立できる環境を整備し、児童の福祉の向上を図り、地域の子育て力を高めることを目的としています。

事業開始初年度のためパンフレット・ちらしの作成、ファミサポ通信の発刊、ホームページへの掲載等により新規会員獲得に取り組みました。

会員の募集、登録等に関する業務

項目	会員登録件数
まかせて会員（提供）	73名
おねがい会員（依頼）	67名
両方会員	6名
合計	146名

活動実績

項目	活動実績件数
保育所・幼稚園の登園前の預かり	1件
保育所・幼稚園の送り	85件
保育所・幼稚園の迎え	26件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	2件
青い鳥教室（放課後留守家庭児童会）の送り	3件
青い鳥教室（放課後留守家庭児童会）前の預かり	3件
保護者等の外出の場合の援助	28件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	3件
合計	151件

講習会の開催

年月日	内 容	参加人数	場 所
22. 6. 5 6	まかせて会員養成講座	36名	飯山総合保健福祉センター
22. 8.26 27	まかせて会員養成講座	37名	ひまわりセンター
22.11.25 26	まかせて会員養成講座	16名	飯山総合保健福祉センター
23. 2.17	スキルアップ研修	41名	ひまわりセンター

会員交流会の開催

年月日	内 容	参加人数	場 所
22.12.18	クリスマス会	41名	飯山総合保健福祉センター

関係機関との連絡調整

市児童課・放課後留守家庭児童会・小学校・幼稚園・保育所・子育て支援センター等関係機関と連携し、事業の啓発活動に取り組みました。

センターの事業に関する広報業務

社協広報誌「かけはし」、市広報誌・コミュニティ誌・子育て情報誌等へ記事を掲載、ホームページ上に専用のページを設け、情報を提供することにより、新規会員の獲得に取り組みました。

《効果》

昨年7月から事業を開始し、会員よりの口コミと啓発活動で住民の関心の輪が拡がり、今年に入りおねがい会員（依頼会員）の登録が増加しはじめました。また、まかせて会員（提供会員）の確保のための周知活動に重点を置き、3回の養成講座を開催する中で、当初の目標登録会員数100名を大幅に上回る146名の登録ができました。

マッチング（事前打合せ）件数も徐々に増加し、会員同士の交流も始まり、少しずつ地域の子育ての輪が拡がりをみせています。

《課題》

小地域・保育所・幼稚園、企業へ出向き相談会を開催し、支援を必要としている子育て家庭へさらなる周知を行い会員の増大を図っていきます。

会員同士の交流会を定期的で開催し、子育て家庭のニーズに沿った事業展開を進めていきます。

（２）保育所運営開設の準備

高齢化の進展が著しい現状のなか、本会は高齢者福祉に軸足を置いた活動を主体に事業展開してきましたが、少子化対策の一環として、地域における子育て力の向上を担う事業に取り組むため、平成24年4月1日に開園を目指している丸亀市初の公立保育所民営化園である塩屋保育所の開園準備を進めました。

保育所設置検討委員会の設置

市社協による保育所経営の可否について検討するため、15名の委員構成による保育所設置検討委員会を4月に設置し、保育所経営に関する調査を行いました。

年月日	内 容
22. 4.26	第1回検討委員会 ・丸亀市の保育の現状等について ・市社協による保育所経営について
22. 5.20 21	第2回検討委員会 ・碧南市社会福祉協議会 荒子保育園視察研修
22. 6.11	第3回検討委員会 ・碧南市視察調査報告について ・検討、確認を要する事項について

年月日	内 容
22. 6.25	第4回検討委員会 ・検討、確認を要する事項での質疑応答

《効果》

具体的な移管業務を調査するとともに、社協園による保育所運営の状況を把握することにより、本会における保育所の受託条件や行政との役割分担並びに移管スケジュール等について検討いたしました。

理事会・評議員会の開催

会議名	年月日	内 容
理事会	22. 7. 6	・保育所経営の参画について
理事会 評議員会	22.12.20	・保育所経営について

《効果》

7月の理事会において、保育所経営の参画について承認をいただき、行政へ報告しました。

12月17日、行政より市社協による保育所の公立保育所民営化の経営依頼があり、12月20日の理事会、評議員会において承認を得、平成23年4月の保育所運営開始に向け準備を進めました。

保育所準備室の設置

行政との連携強化を図りながら、保育所運営の専門機能向上と円滑な保育所移管を行うため、1月に、保育所開設準備室をひまわりセンター内に設置し、行政からの派遣職員等を配置しました。

先進地研修等

既に保育所を運営している社会福祉協議会、民間保育園等への先進事例調査を中心に研修を実施し、公立保育所からのスムーズな移行を進めるために、情報収集に努めました。

年月日	研 修 先	参加人数	場 所
23. 1.20	南国市社会福祉協議会 長岡東部保育園視察研修	6名	高知県
23. 1.25	内子町社会福祉協議会 内子保育園視察研修	6名	愛媛県
23. 2. 4	保育所経営セミナー	4名	大阪府
23. 2.16	香川短期大学附属幼稚園視察研修	6名	宇多津町
23. 2.21	香川短期大学附属のぞみ保育園視察研修	6名	善通寺市

《課題》

運営の根幹を担う保育所職員の採用、運営規程、就業規則、給与規程等の策定を進めるとともに、公立保育所の保育を継続する中で独自の運営方針を検討する等、設置認可等を含む事務手続きと併せ、行政との連携を更に強化し円滑に移管引継ぎが完了するよう準備を進め、平成24年4月1日の保育所開園を目指します。

6 . 広報・啓発活動の推進

(1) 社協だより「かけはし」の発行

地域福祉活動を掲載した広報誌を全戸配布することにより、情報を提供し、社会福祉に対する市民への広報活動に努めました。

号 数	発刊年月日	発刊部数	主 な 内 容
16号	22. 7. 1	44,600	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度事業計画及び予算 ・誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して ・地域で子育てを応援しましょう ・介護保険サービスのご案内 ・会費のお願い ・ふれあい相談 ・あやうた温泉湯舟道 ・春の叙勲 ・講座のご案内 ・善意の窓
17号	22.10. 1	45,000	<ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根共同募金 ・第6回社会福祉大会 横峯吉文先生講演会 「すべての子どもは天才であるヨミネ式教育法を伝えます」 ・丸亀市ファミリー・サポート・センター ・子育てホームヘルプサービス ・あやうた温泉湯舟道 コミュニティバスがあやうた温泉湯舟道へ ・生きがいデイサービス 飯山総合保健福祉センター2階老人保健施設ご案内 ・こども福祉セミナー&ワークキャンプ ・地域であんしんして暮らすために ・無料専門相談のお知らせ ・平成21年度事業・決算報告 ・善意の窓 ・ボランティアセンターコーナー
18号	23. 3. 1	45,300	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくし講座のご案内 ・あやうた温泉湯舟道 リニューアルオープン ・デイサービスにいらっしやい ・介護のことならおまかせ ・無料専門相談 ・みなさまの善意を福祉のために ・平成22年度 赤い羽根寄付者のご芳名 ・誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり ・善意の窓 ・ホームページリニューアル ・「社協のあゆみ」発行 ・ふくしフェスティバルのご案内

《効果》

身近な福祉情報を全世帯へ配布することにより、福祉講座・講演会の参加人数が増加しました。

(2) 社会福祉大会の開催

10月29日(金) 市民会館大ホールに福祉関係者が一堂に会し、生まれ育った地域で安心して生活が送れる地域福祉の充実を目指す決意を新たにするとともに、多年にわたり、社会福祉の発展に貢献された方々の顕彰を行いました。

2部の記念講演は講師に横峯吉文先生をお迎えし、「すべての子どもは天才である」と題し、全国的に話題となっている「ヨコミネ式」子育て法のご講演をいただきました。会場はメモを取りながら熱心に聴き入る人で満席となりました。

- ・丸亀市社会福祉協議会会長表彰 58名
- ・丸亀市社会福祉協議会会長感謝 5名・8団体
- ・香川県共同募金会丸亀市支会長表彰 5名

《効果》

福祉関係者が一堂に会し、被表彰者の功績を顕彰することにより、更なる活動の飛躍と関係者の福祉活動に取り組む励みの場となりました。

また、講演会を通して、「子どもの無限の可能性」を改めて知る良い機会となりました。

(3) ふくしフェスティバルの開催

ボランティア団体や福祉施設・団体に幅広く参加を呼びかけ、3月20日(日)アイレックスにおいて開催しました。それぞれの福祉活動を市民に周知する場として、また、子どもの心の豊かさを育てるおもちゃリサイクル「かえっこバザール」も開催し、大勢の参加を得て盛会のうちに終了しました。

会場の各所では、東日本大震災の義援金を募集し、参加者の善意153,495円が寄せられ、中央共同募金会を通じて被災者に届けられます。

(4) ホームページ等による積極的な情報の提供

平成23年1月、ホームページをリニューアルしました。地域福祉事業、介護保険事業、社協のあゆみをホームページ上に掲載するにより、インターネットを通して啓発活動を行い、本会活動に対する理解を深めました。

《効果》

新着情報、イベント・講座のご案内などの情報をいち早く更新することにより、市民に対し事業の啓発活動を行うことが出来ました。

インターネットアドレス

<http://www.marugame-shakyo.or.jp/>



7 . 経営体制の強化

(1) 経営基盤の強化

理事会・評議員会等の開催と地域から信頼される組織づくり

会議名	年月日	出席者	付 議 事 項
理 事 会	22. 5.28	1 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度事業報告・決算について ・諸規程議案 3件 ・人事議案 1件 ・報告事項 3件
	22. 5.28	1 5 名	<ul style="list-style-type: none"> ・常務理事の指名について
	22. 7. 6	1 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所経営の参画について
	22. 8.19	1 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ・競艇場福祉売店の仮店舗営業について ・その他 2件
	22.12.20	1 5 名	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所経営について ・人事案件 1件 ・諸規程議案 6件 ・報告事項 6件
	22.12.20	1 4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長の選任について
	23. 3.29	1 4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度補正予算(案)ついて ・平成23年度事業計画・予算(案)について ・定款の一部変更について ・諸規程議案 3件 ・福祉・災害積立預金の取崩し及び「東北関東大震災」被災者への義援金送金について ・報告事項 6件
評 議 員 会	22. 5.28	3 1 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度事業報告・決算について ・人事議案 2件 ・報告事項 1件
	22.12.20	2 7 名	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所経営について ・人事案件 1件 ・報告事項 2件
	23. 3.29	2 3 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度補正予算(案)について ・平成23年度事業計画・予算(案)について ・定款の一部変更について ・報告事項 1件

《概説》

理事会 7 回、評議員会 3 回開催し、法令遵守のもと、業務や経営の状況等の議題審議について承認を得ました。

本年度は、新しい子育て支援分野へ参画するため、保育所経営については、保育所設置検討委員会で協議を重ね、12月開催の理事会、評議員会において、保育所経営実施の承認をいただきました。

また、組織内での合意形成を強化し、役員体制の活性化を目指すため、役員構成と定数の見直しを行いました。地域に開かれた公共性と民間性をあわせ持つ団体として、地域住民から信頼される組織づくりを目指してまいります。

事務局体制の強化

(ア) 担当長会の開催と目標管理

《概説》

住民の生活問題を原点とした事業推進の目標や、長期的なビジョンを共有し、各部門が連携して事業を推進するため、担当長会を13回開催しました。

また、事務局体制を強化するため、7月より試行的目標管理制度を導入。毎月、担当長会において進捗状況を報告し、月末には目標達成とそのプロセスを検証し、担当長の自己管理能力アップを目指しました。次のステップとして、目標が組織や担当課のチームの中で展開され、やる気の高揚、創造力の発揮、自己成長、組織の活性化へとつながるよう推進してまいります。

(イ) 職員育成の推進

《概説》

職員一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし活用するため、組織人として求められる基本的な資質能力を習得し、担当業務や立場・役割に応じて期待される職務遂行能力を身につける必要があります。

専門性の向上と組織力の開発を目指すため、職員研修の推進を図り、「管理職員研修会」、「基幹職員研修会・運営管理研修会」他、各種研修会や講演会等への参加を積極的に推奨しました。今後は、研修を人事管理の一環として位置付け、その成果が、利用者サービスの向上や住民のニーズに貢献できるよう、今後も推進体制の確立を目指します。

〔基本研修〕

年月日	研修内容	場所
22. 7. 1 ~ 3	市区町村社会福祉協議会 新任事務局長研修会	東京都(全社協)
22. 8.25 ~27	市区町村社協基幹職員研修会 運営管理研修会	東京都(全社協)
22.10.18 ~19	社会福祉協議会活動全国会議	東京都(全社協)
22.11.18 ~19	中国・四国都市社協連絡協議会 事務局長・職員研修会	愛媛県松山市
23. 1.11 ~14	市区町村社会福祉協議会 管理職員研修会	神奈川県(町オオ湘南)
23. 3. 4 ~ 5	トップセミナー「これからの中小企業経営」	広島県広島市

〔専門研修(総務)〕

年月日	研修内容	場所
22. 8. 4	「改訂！～一歩先を行く～新社会福祉法人会計(素案)のしくみ」	高松市
22. 8.20	「グローバル経営のための中小企業会計セミナー」	高松市
22. 9.10	改正労基法実務対策セミナー 「改正労基法施行後の今考えなければいけないことは？」	高松市
22. 9.14	平成22年度全国労働衛生週間説明会 「我が社のメンタルヘルスケアの取り組みについて」	高松市
23. 2.13 ~16	平成22年度社会福祉協議会 会計実務講座	神奈川県(町オオ湘南)

〔専門研修(地域福祉)〕

年月日	研修内容	場所
22. 6. 2	第4回県内ファミサポ連絡会	さぬき市
22. 7. 16	平成22年度市町社会福祉協議会職員部会	高松市
22. 9. 6	ファミリー・サポートネットワーク全国交流集会	大阪市
22. 9. 8	第5回県内ファミサポ連絡会	三豊市
22. 10. 4	平成22年度四国ブロック日常生活自立支援事業研究協議会	徳島県徳島市
22. 11. 19	平成22年度日常生活自立支援事業生活支援員等集合研修会	高松市
22. 11. 20 ~ 21	住民と事業者と社協と行政の協働でつくる、これからの社会福祉を考えるセミナー	観音寺市
22. 11. 25	平成22年度地域福祉活動における傾聴研修会	高松市
22. 12. 10	第6回県内ファミサポ連絡会	丸亀市
22. 12. 11	平成22年度成年後見制度講演会「誰でも利用できる成年後見制度」	高松市
23. 1. 18 ~ 19	平成22年度広報講習会	高松市
23. 1. 20 1. 25 2. 4	平成22年度メンタルヘルスサポーター養成研修会	丸亀市
22. 4. 8 6. 12 6. 17 7. 1 8. 4 9. 2 10. 22 12. 2 23. 1. 6 1. 29	平成22年度日常生活自立支援事業専門員研修会	高松市
23. 2. 18	災害時要援護者支援セミナー	宇多津町
23. 2. 18 3. 7	成年後見制度人材養成研修会	高松市
23. 2. 21	市町社会福祉協議会地域福祉推進部会	高松市
23. 2. 21	平成22年度地域福祉活動検討会	高松市
23. 2. 22	平成22年度成年後見制度研修会	高松市
23. 3. 3	第7回県内ファミサポ連絡会	高松市
23. 3. 11	平成22年度日常生活自立支援事業生活支援員等ブロック別研修会	丸亀市

組織の見直し

《概説》

子育て支援事業へ取り組むため、4月に「子育て担当」を新設し、7月に「丸亀市ファミリー・サポート・センター事業」を開始。また、行政から検討を依頼された保育所経営の参画については、「保育所設置検討委員会」を設置し、新たな体制でスタートしました。平成23年1月には、理事会、評議員会での公立保育所民営化園経営の承認を受け、「保育所開設準備室」を立ち上げ、保育の専門機能向上と円滑な保育所移管を行うため、行政からの派遣職員等を配置し、新規事業に取り組む活力ある組織づくりに努めました。

(2) 財政基盤の強化

自主財源の確保

《概説》

寄付金収入や利息収入の減収は、地域福祉推進の中核的な組織である本会にとって財政基盤の安定を揺るがすものであり、会費収納率の硬直化も永年の懸案事項でした。会費制度の見直しにより、一般会費は、地区への全額還元制から、100円の納入についてご理解をいただくことができ、総額は減収となったものの、実質的な会費収入の増収につなげることができました。

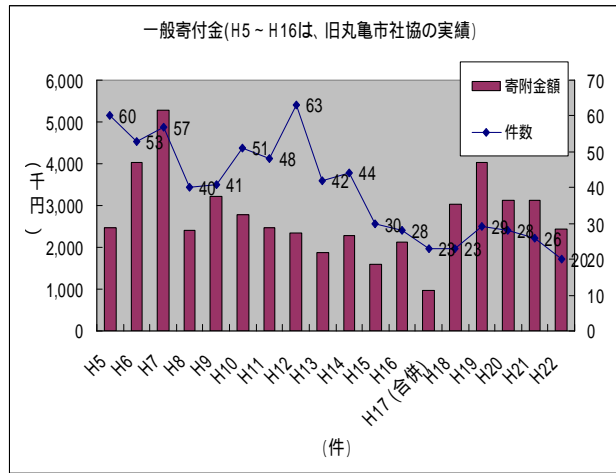
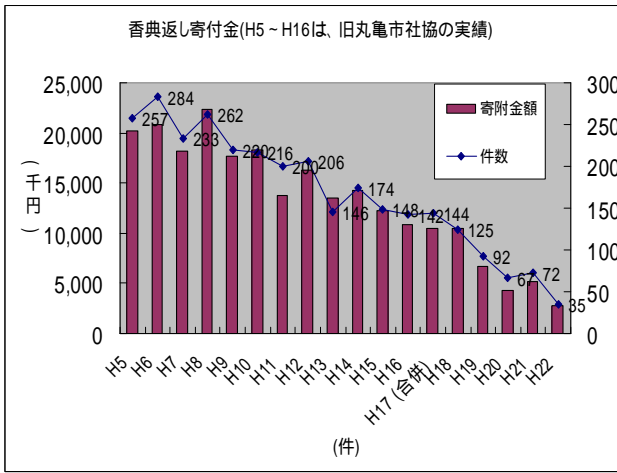
住民のニーズや利用者のサービスの満足度を高める事業を展開するため、広報誌やホームページの有効活用を行いながら、喫緊の課題として、新たな財源確保の研究を進めてまいります。

(ア) 会員・会費の状況

会員区分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
一般会員	25,751世帯	25,618世帯	25,458世帯	25,138世帯	24,723世帯
	7,727,500円	7,685,400円	7,637,400円	7,541,400円	2,472,300円
賛助会員	382人	368人	321人	352人	278人
	614,000円	599,000円	556,000円	581,000円	507,000円
団体会員	158団体	156団体	179団体	189団体	189団体
	661,000円	700,800円	886,000円	908,000円	958,000円
合計	9,002,500円	8,985,200円	9,079,400円	9,030,400円	3,937,300円

(イ) 寄付金収納状況

項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
香典返し寄付金	125件	92件	67件	72件	35件
	10,515,000円	6,748,000円	4,295,000円	5,210,000円	2,820,000円
一般寄付金	23件	29件	28件	26件	20件
	3,042,230円	4,028,872円	3,121,608円	3,134,981円	2,422,558円
物品寄付	14件	10件	20件	16件	16件



三菱電機(株)受配電システム製作所様より
(100万円相当の物品寄付)



城南小学校5年生より
(一般寄付金)



国際ソロプチミスト様より
(車輛の寄付)

地域福祉活動推進を図るための積立金

《概説》

各種積立金は、事業計画に基づく活動資金の取り崩しをおこない、各種事業に活用しました。今年度は、東北地方太平洋沖地震の被災者への義援金を送るため、「福祉・災害積立預金」の取り崩しについて、理事会で承認を得ました。

今後は、将来の事業の継続や備品購入等に備えた資金確保のため、積立目的の明確化について見直しを行ってまいります。

〔積立状況〕

〔円〕

名 称	種別	前年度繰越金	増減額	決 算 額		〔内、利息収入〕
福祉・災害積立預金	普通	2,579,208	1,080,813	3,660,021	223,660,021	1,080,813
	定期	220,000,000	0	220,000,000		
福祉推進資金運用積立預金	普通	17,815,994	461,000	18,276,994	212,886,594	695,685
	定期	171,609,600	23,000,000	194,609,600		
介護保険事業安定積立預金	普通	4,561,448	351,079	4,912,527	154,912,527	351,079
	定期	130,000,000	20,000,000	150,000,000		
合 計		546,566,250	44,892,892	591,459,142		2,127,577

8 . 介護サービス事業の効率的経営

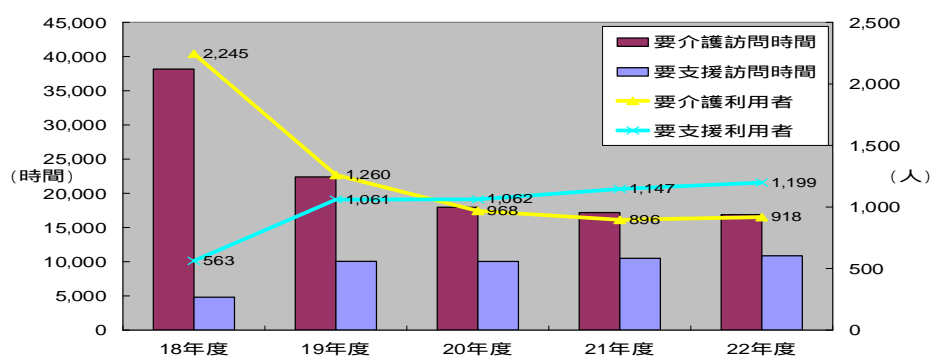
(1) 介護保険事業

指定訪問介護・介護予防訪問介護事業（ホームヘルパー）

要介護認定を受けた高齢者等に対し訪問介護員を派遣し、食事・入浴・排泄等の身体介護や、炊事・掃除等の生活援助などのサービス提供を行いました。また、離島等の支援困難地域へ積極的にヘルパーを派遣し、利用者の居宅における日常生活の維持・向上に努めました。

利用状況

区 分		年 度				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数 (人)	要介護	2,245	1,260	968	896	918
	要支援	563	1,061	1,062	1,147	1,199
合 計		2,808	2,321	2,030	2,043	2,117
訪問時間 (時間)	要介護	38,174.0	22,394.0	17,967.0	17,189.5	16,885.5
	要支援	4,808.5	10,051.5	10,045.0	10,503.0	10,865.0
合 計		42,982.5	32,445.5	28,012.0	27,692.5	27,750.5

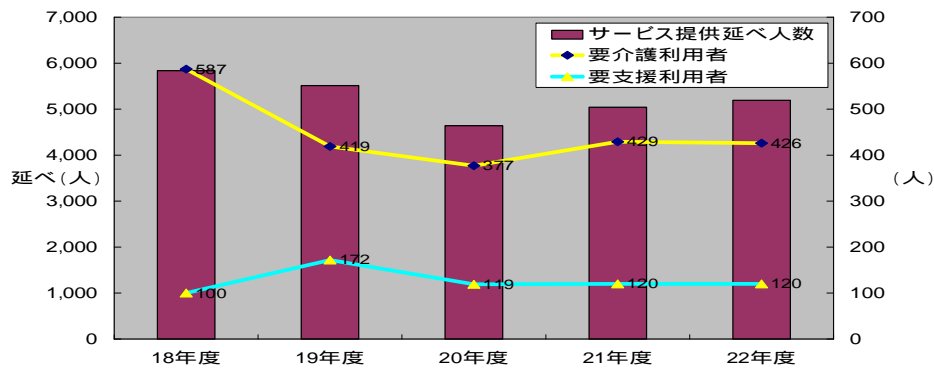


指定通所介護・介護予防通所介護事業（デイサービス）

要介護認定を受けた高齢者等に対して音楽療法、レクリエーション、入浴介助、食事介助等を行い、利用者の身体機能の維持と生活の質の向上に努め、居宅における家族介護負担の軽減を図りました。

利用状況

区 分		年 度				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数 (人)	要介護	587	419	377	429	426
	要支援	100	172	119	120	120
合 計		687	591	496	549	546
サービス提供延べ数(人)		5,838	5,512	4,641	5,043	5,192

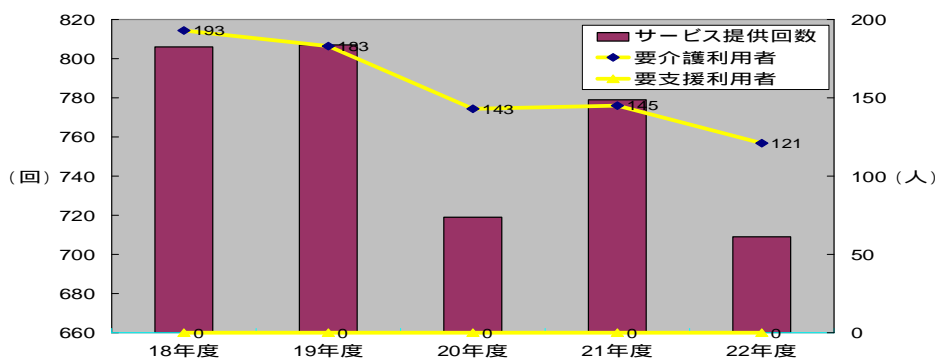


指定訪問入浴・介護予防訪問入浴介護事業 (入浴車による家庭入浴)

巡回入浴車を使用し、要介護認定を受けた高齢者等に対して入浴サービスを提供し、利用者の日常生活の援助と介護者の負担の軽減を図りました。また、必要に応じて協力医に助言をいただくことにより、安全確実な事業展開に努めました。

利用状況

区 分		年 度				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数 (人)	要介護	193	183	143	145	121
	要支援	0	0	0	0	0
合 計		193	183	143	145	121
サービス提供回数(回)		806	807	719	779	709

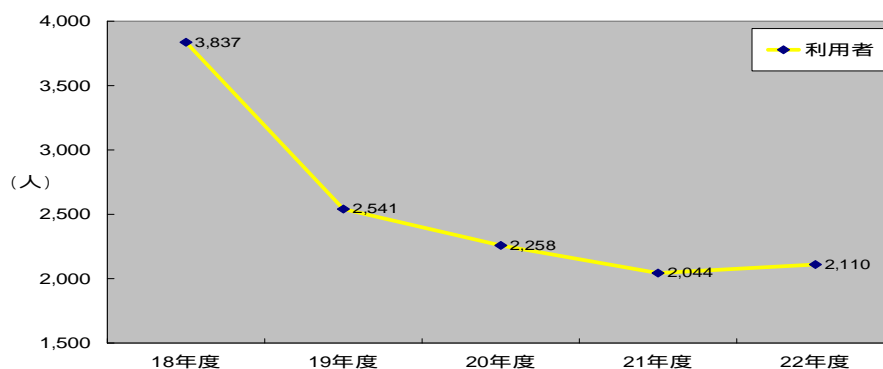


指定居宅介護支援事業 (ケアマネージャー)

要介護認定を受けた高齢者等に対し、日常生活における相談助言を行い、居宅サービス計画を作成しました。

利用状況

区 分		年 度				
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)		3,837	2,541	2,258	2,044	2,110



《概説》

本年度は、介護保険事業における利用者サービスの質の向上と安定的な収益確保のため、事業所の改善に取り組みました。

訪問介護事業では、軽度利用者の増加により利用者単価が年々低下していますが、サービス提供体制の強化に努め、平成23年1月より特定事業所加算を取得し、さらなる利用者サービスの向上と安定的な収益を確保することができました。

通所介護事業では、土曜日のサービス提供を再開し、月間開所日を増やすことで、家族介護者の負担軽減に努めました。今後は、積極的な広報啓発活動に取り組み、1日当たりの利用者増加を目指します。

訪問入浴介護事業では、対象者が限定され、安定的な利用者確保が困難であるため、消耗品価格見直しなど経費節減に努めました。今後も収支バランスを注視しながら事業継続してまいります。

居宅介護支援事業では、特定事業所加算取得準備のため、職員の資格取得や内部統制の強化に努め、平成23年6月より特定事業所加算を取得する予定です。

平成23年度は、現在策定中の「介護事業中期3ヶ年計画」に基づき、「事業所基礎体制の強化」や「広報活動の強化」に取組み、利用者に信頼される安心安全な事業所運営に努めてまいります。

(2) 受託運営事業

老人ホームヘルプサービス事業

老人ホームヘルプサービス事業(軽度生活援助事業・生活管理指導員派遣事業)を受託し、介護保険の対象とならない一人暮らし高齢者や虚弱高齢者等で真にサービスが必要な方に対し、安定した自立生活が送れるよう家事サービス・生活指導等を実施しました。

(ア) 軽度生活援助事業利用状況

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)	367	473	480	447	480
サービス提供回数(回)	2,145	2,527	2,563	2,433	2,805

(イ) 生活管理指導員派遣事業利用状況

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)	144	113	105	97	85
サービス提供回数(回)	950	610	548	510	479

生きがい活動支援通所事業

生きがい活動支援通所事業を受託し、介護保険の対象とならない一人暮らし高齢者や虚弱高齢者等で真にサービスが必要な方に対し、要介護状態等にならないための生活指導・軽体操等を実施しました。

利用状況

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
サービス提供延べ数(人)	4,880	4,325	4,049	3,761	3,193

介護予防居宅支援事業（介護予防ケアマネージャー）

介護予防居宅支援事業を受託し、要支援者の居宅介護計画作成を行いました。また、ケース検討会等に積極的に参加し、市との連携を深め、地域における在宅福祉の強化に努めました。

利用状況

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)	610	633	349	284	381

移動支援事業（ガイドヘルパー）

移動支援事業を受託し、屋外での移動に困難がある障がい児(者)に対して、地域における自立生活及び社会参加を促す外出のための介助を行いました。

利用状況

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)		43	88	91	102
サービス提供時間(時間)		411.0	628.0	599.5	739.0

子育てホームヘルプサービス事業

子育てホームヘルプサービス事業を受託し、一時的に育児援助や家事援助等を必要とする児童（0歳児から小学3年生）を養育している世帯に、育児負担の軽減を図るためホームヘルパーを派遣しました。22年度は、延べ1世帯10時間のサービスを実施しました。

《概説》

丸亀市より老人・児童・障がい児(者)等の事業を受託し、サービス提供を行いました。老人ホームヘルプ事業では、離島をはじめとした利用者の居宅にヘルパーを派遣し、地域において安心して暮らせる生活の支援に努めました。

生きがい活動支援通所事業では、「あやうた温泉湯舟道」のボイラー改修工事により、3ヶ月の間、拠点を飯山に移して事業を行った影響で、綾歌地区の利用者が減少し、年間を通じ、利用者の減少となりました。今後は、運営方法の見直しを行うとともに利用者の少ない地域での広報活動を強化し、利用者獲得に努めます。また、子育てホームヘルプサービス事業、介護予防居宅支援事業、移動支援事業では利用者の立場に立った支援に努めました。

平成23年度は、多様化する利用者ニーズに素早く対応するため、関係機関との連携強化や情報収集、職員の資格取得促進を図り、幅広い支援体制の構築に努めてまいります。

(3) 障害者自立支援事業

居宅介護事業

様々なハンディキャップを持つ障がい者が、その地域や居宅において安心して自立した日常生活を営むことができるよう訪問介護員を派遣して、身体介護・家事援助等のサービスを行いました。

利用状況

区 分 \ 年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)	508	447	390	358	320
訪問時間(時間)	8,843.5	8,126.0	4,735.5	4,682.0	4,825.0

重度訪問介護事業(障がい者ホームヘルパー)

区 分 \ 年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
利用者数(人)			31	24	24
訪問時間(時間)			2,559.0	2,004.0	2,005.5

《概説》

障害者自立支援事業は、地域における包括的な支援体制の強化が重要であり、市や関係機関との密な連携をもって事業展開しました。

今後は、国の制度変更動向に十分留意しながら、職員の育成や資格取得促進をさらに推し進め、的確な利用者ニーズの把握とサービス向上に努めてまいります。

《関係諸会議及び関係研修会への参加》

会議に参加し、関係機関との連携を図り、また研修会に積極的に参加することで、職員の技術向上に努め、本年度は45会議研修延べ126名の職員を派遣しました。

訪問介護事業および通所介護事業では、高松市社会福祉協議会を訪問し、具体的な事業運営方法を伺うことで、本会が直面するさまざまな課題解決に役立てることが出来ました。

また、居宅介護支援事業では主任介護支援専門員研修に参加し、特定事業所加算取得条件を整備することが出来ました。

年 月 日	研 修 内 容	場 所
22. 4.19 / 6.18 22. 9.16 / 11.12 22.12.14	居宅介護支援事業者連絡会	丸亀市
22. 4.21	平成22年度短期専門コース(基本介護技術・実技)	高松市
22.10.14	平成22年度短期専門コース(高齢者の心と体)	高松市
23. 1.12	平成22年度短期専門コース(実技)	高松市
23. 2. 5	平成22年度短期専門コース(実技)	高松市
23. 3.18	平成22年度短期専門コース(高齢者に多い緊急時の対応)	高松市

年月日	研修内容	場所
22. 5.13	高松市社会福祉協議会視察（訪問介護）	高松市
22. 5.19 / 7.21 22. 9.15 / 11.17 23. 1.19 / 3.16	高齢者虐待防止実務者会議	丸亀市
22. 5.21 / 5.26 22. 5.28 / 6. 2 22. 6. 9 / 6.11	平成22年度身体・知的・精神障害者ホームヘルパー ステップアップ研修	高松市 丸亀市
22. 5.28	平成22年度レクリエーション・アクティビティ研修会	高松市
22. 6. 2	高松市社会福祉協議会視察（通所介護）	高松市
22. 7. 9 / 7.16 22. 7.20 / 8. 6 22. 8.20 / 8.27 22. 9. 3 / 9.10 22. 9.17	高松市社会福祉協議会実地研修（通所介護）	高松市 香南町・香川町
22. 6. 3	第8回まるがめ認知症の予防と介護を考える会 特別講演会	丸亀市
22. 6.16	処遇改善交付金とキャリアパス導入の対策セミナー	宇多津町
22. 7. 2 / 7. 3 22. 7. 9 / 7.10	平成22年度介護福祉士養成実習施設実習指導者研修会	高松市
22. 7. 4	平成22年度訪問介護適正実施研修会	高松市
22. 7.12	精神保健福祉連絡会「かめたの会」定例会（講師派遣）	丸亀市
22. 7.28	キャリア・パス研修会	高松市
22. 8.25	平成22年度市町社会福祉協議会職員接遇研修会	高松市
22. 9. 8	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （セーフティマネジメント）	高松市
22. 9.14	全国労働衛生週間説明会	丸亀市
22. 9.17 22. 9.21	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （介護課程の実践的展開）	高松市
22. 9.24	能力開発啓発セミナー ～働きやすい職場環境づくりについて～	高松市
22.10. 8	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （利用者の全人的理解と尊厳）	高松市
22.10.13	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （ケア現場での気づきと助言）	高松市
22.10.28	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （介護遊びこそリハビリテーション）	高松市
22.11. 2	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （ダイバーショナルセラピー）	高松市
22.11.19	平成22年度福祉従事者キャリアアップ支援研修会 （パーキンソン症候群の臨床とケアについて）	高松市

年月日	研修内容	場所
22.10.1	平成22年度第1期社協在宅福祉サービス研修会 (介護現場における感染対策について) (食品の安全～食中毒の予防～)	高松市
23.2.10	平成22年度第2期社協在宅福祉サービス研修会 (認知症高齢者への対応について) (危機管理・安全対策について)	高松市
22.11.14	平成22年度第2回香川県ホームヘルパー協議会 スキルアップ研修会	高松市
22.11.18 23.3.15	平成22年度居宅介護事業所連絡会	丸亀市
22.11.18 22.11.19	平成22年度中国・四国都市社会福祉協議会連絡協議会 第48期事務局長・職員研修会	愛媛県松山市
22.11.20 22.11.27	平成22年度視覚障がい者ガイドヘルパー養成研修	丸亀市
22.11.24 / 12.11 22.12.24 23.1.13 / 2.7 23.2.11 / 2.17 23.2.18 / 3.9	平成22年度主任介護支援専門員研修	高松市
22.11.25 / 12.3 22.12.8	平成22年度訪問介護計画作成・展開研修会	高松市
22.12.1	第1回アディクション関連問題研修会	高松市
22.12.6	平成22年度人事労務管理セミナー	高松市
22.12.6	介護予防体操指導者研修会	丸亀市
22.12.13	第4回香川県社会福祉施設経営者研究大会	高松市
23.1.18 23.1.19	平成22年度広報講習会	高松市
23.1.26	平成22年度福祉サービス苦情解決事業研修会	高松市
23.1.31	災害時要援護者支援ワークショップ	丸亀市
23.2.22	合同研修会 (介護支援専門員と訪問介護事業所との連携に向けて)	丸亀市
23.3.15	居宅介護事業所連絡会研修	善通寺市

(4) 利用者保護及び事業の透明性確保のための苦情解決事業

苦情相談受付窓口の設置

介護サービス事業等に関する苦情については、利用者等の立場や環境に十分配慮し、誠意をもって対応しました。平成23年度においても適切な苦情解決を図るため、会議研修等に積極的に参加し、職員の質の向上に取り組んでまいります。

苦情解決第三者委員会の開催

本年度は審議案件なしのため、非開催としました。

9 . 指定管理者制度における施設管理経営

(1) 丸亀市保健福祉センターの管理充実

丸亀市保健福祉センター、綾歌保健福祉センター及び飯山総合保健福祉センターの指定管理を受け、市民に福祉活動の場の提供及び支援等を行うとともに、「市民サービスの向上」「経費の削減」を目標に事業を実施しました。

丸亀市保健福祉センター（ひまわりセンター）

(ア) 利用者サービスの向上

- ・ 1階エントランスホールの机、椅子の配置を変え、自動販売機を設置することにより、エントランスホールに憩いの場を提供することが出来ました。
- ・ 7月から丸亀市ファミリー・サポート・センターのサポートルームを4階に開設し事業の充実を図りました。
- ・ センター駐車場の区画、横断歩道のラインを塗り直し、利用者の安全確保を図りました。

(イ) センター利用状況

[延べ人数]

会場		年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
1階	機能訓練室		14,481	9,839	9,269
	囲碁将棋		5,477	5,055	5,397
	ヘルストロン		-	1,205	3,894
合 計			19,958	16,099	18,560

会場		年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
			延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数
3階	会議室 1		6,460	327	7,597	344	6,695	331
	調理室		2,760	128	2,862	121	2,865	146
4階	会議室 2		4,593	278	5,708	336	5,610	301
	会議室 3		2,802	240	3,356	290	3,960	268
	会議室 4		693	51	1,206	68	4,158	158
	研修会議室 1・2		15,936	225	17,743	223	13,732	203
	研修会議室 3		6,915	193	7,735	197	9,650	195
合 計			40,159	1,442	46,207	1,579	46,670	1,602

(ウ) 光熱水費等年度別比較

[円]

種 類	平成20年度	平成21年度	平成22年度
ガ ス	2,692,331	2,643,292	3,635,635
電 気	5,297,667	4,926,046	5,261,548
水 道	689,120	792,320	829,730
合 計	8,679,118	8,361,658	9,726,913

丸亀市綾歌保健福祉センター

(ア) 利用者サービスの向上

- ・ 6月より2階プレイルームを月曜日から金曜日まで開放し、子育て支援の場を提供することにより、センター利用者の増加を図り、要望のあった同ルームにベビーゲートを設置しました。

(イ) センター利用状況

[延べ人数]

会場		年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
2階	プレイルーム		-	362	1,551

会場		年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
			延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数
1階	多目的ホール		2,915	114	2,523	103	176	6
	会議室		-	-	-	-	825	40
	相談室 1		145	26	106	37	91	29
	相談室 2		14	2	0	0	29	6
2階	研修室(和室)		1,693	81	1,324	70	829	61
	相談室 3		838	69	668	55	215	28
	調理実習室		1,364	83	1,444	76	1,115	74
	栄養研修室		1,462	86	1,480	78	1,176	77
合 計			8,431	461	7,545	419	4,456	321

平成22年7月から多目的ホールが運動指導室(10月開始)に変更となりました。

(ウ) 光熱水費等年度別比較

[円]

種 類	平成20年度	平成21年度	平成22年度
ガ ス	58,227	66,821	61,521
電 気	2,188,210	1,879,318	2,214,290
水 道	62,532	53,508	55,911
合 計	2,308,969	1,999,647	2,331,722

丸亀市飯山総合保健福祉センター

(ア) 利用者サービスの向上

- ・ 利用者の利便性を考え、4月より2階老人健康施設の年間利用券の販売を再開しました。
- ・ 8月より1階プレイルームを月曜日から金曜日まで開放し、子育て支援の場を提供することにより、センター利用者の増加を図りました。

(イ) センター利用状況

[延べ人数]

年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度
会場				
2階	プレイルーム	-	424	1,224

年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
会場		延べ人数	件数	延べ人数	件数	延べ人数	件数
1階	相談室 1	30	11	101	29	63	13
	相談室 2	164	32	115	30	148	40
2階	会議研修室 1・2	3,143	98	2,714	98	2,948	119
	調理実習室	1,255	57	1,689	66	1,355	50
	栄養指導室	2,207	100	2,127	94	1,556	77
合 計		6,799	298	6,746	317	6,070	299

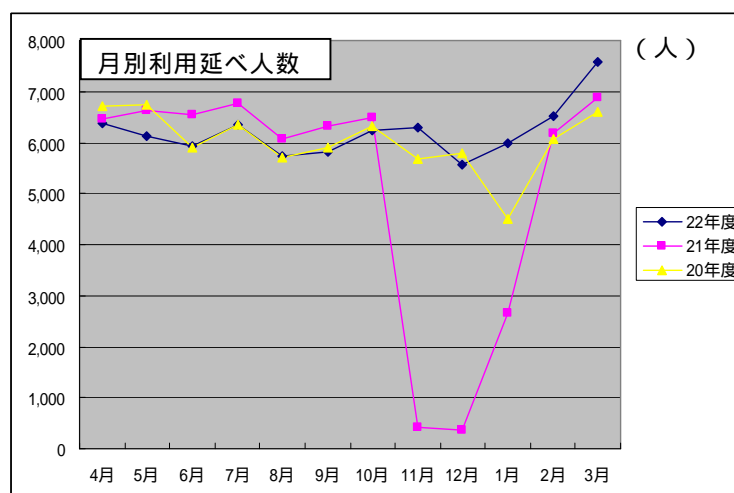
(ウ) 2階老人健康施設（娯楽室及び入浴施設）利用状況

施設を利用できる方は、丸亀市に住所を有し、満60歳以上の年齢になる方

[延べ人数]

年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度
会場				
2階	老人健康施設	72,258	61,756	74,502

平成21年11月～平成22年1月（約3ヶ月）まではボイラー工事のため入浴施設を休館しました。



(エ) 光熱水費等年度別比較

[円]

種 類	平成20年度	平成21年度	平成22年度
ガ ス	73,825	89,824	71,690
電 気	6,472,959	5,401,769	6,396,055
水 道	6,225,800	4,584,490	5,727,860
重 油	5,689,950	3,297,840	5,268,847
合 計	18,462,534	13,373,923	17,464,452

《効果》

本会がこれまで当該施設の管理運営を確実に行ってきた実績とサービス向上への取り組みなどが高く評価され、平成23年度から平成25年度（3年間）も、引き続き指定管理者に選定されました。

平成18年度からの指定管理者制度において、経費削減等の取り組み成果によって生じた繰越金2,000万円は本年度、一般会計へ繰り出し、自主財源を確保しました。

利用者ニーズを適切に把握するため、9月にアンケート調査を実施し、要望に即した各改善を行うことにより、施設利用者の満足度に適切に対応しました。

社協広報誌「かけはし」に老人健康施設の記事を掲載、ホームページ上にセンター紹介のページを設け、施設の情報を提供し、利用者の増加に取り組みました。

防火管理責任者講習（2名）、小規模ボイラー取扱技能講習（1名）、入浴施設の衛生管理に関する講習会（1名）に参加し、専門知識を習得し運営体制を強化しました。

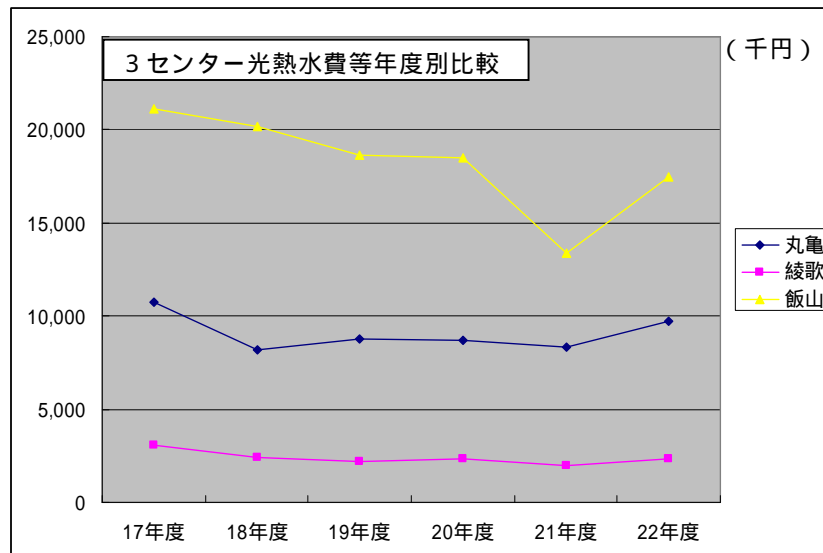
突発的な事故の発生に備え、行政と共有できる緊急連絡網を作成し、迅速な対応が取れる体制づくりを整えました。

老人健康施設の利用料金の値上げについては行政に要望中です。

《課題》

丸亀市保健福祉センターの貸館利用者数は増加しているものの、綾歌保健福祉センター、飯山総合保健福祉センターはともに減少しているため、社協広報誌「かけはし」、ホームページ等の広報活動により利用者の増加に取り組みます。

平成22年度は暑夏、寒冬の影響により空調費を含む光熱水費等が各施設において増大していますが、今後さらに電気・重油価格の値上げが予想されるため、節電を徹底し効率的な管理運営に取り組み、経費削減に努めます。



施設は10年を経過し、経年劣化による修繕費が増大していますが、日常点検を強化するとともに、必要な修繕を適正に実施します。

今後、四国沖においても大規模地震の発生が予想されることから、災害対応マニュアルの作成、訓練、施設整備等に取り組みます。

(2) あやうた温泉「湯舟道」の経営充実

綾歌健康づくりふれあいセンター（あやうた温泉湯舟道）の指定管理を受け、市民の健康の増進、交流等を図るため、地域に根ざした利用者サービスを目標に事業を実施しました。

本年度は1月11日から3月末にかけて、ボイラー工事のため約3ヶ月間休業しました。また、10月から保健所の指導により、配管塩素消毒のため、水曜日の営業終了時間を午後9時から午後6時へ変更しました。



(ア) 利用者サービスの向上

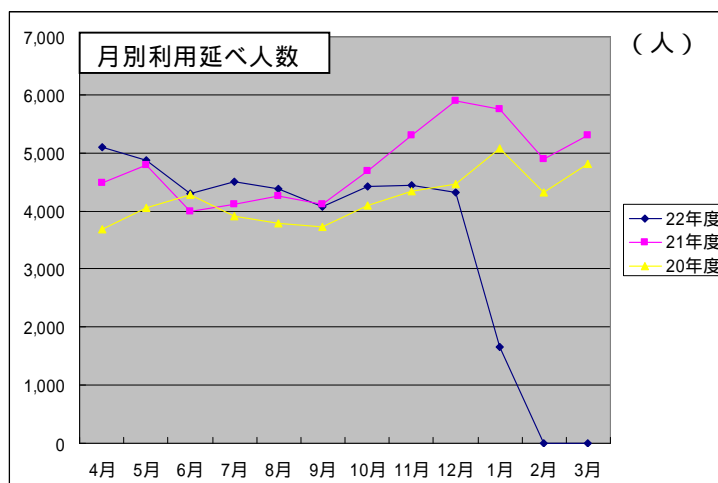
- ・11月よりコミュニティバスの運行を開始し、利用者の利便性向上を図りました。
- ・アンケート調査の結果をもとに、各職員と綿密な打合わせを行い、利用者ニーズに即した各改善を行い、サービス向上に努めました。

(イ) 温泉施設利用状況

[延べ人数]

会場	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
温泉施設		50,563	57,589	42,346

平成23年1月11日～3月末まではボイラー工事のため施設を休館（約3ヶ月）



(ウ)光熱水費等年度別比較

〔円〕

種 類	平成20年度	平成21年度	平成22年度
電 気	2,878,972	2,799,593	2,674,508
水 道	1,423,980	1,342,908	1,107,456
重 油	4,225,411	3,117,555	2,509,605
合 計	8,528,363	7,260,056	6,291,569

《効果》

3ヶ月の休業に伴い下記の工事を実施し、必要な備品等を購入、設置することにより、4月のオープンに向け準備を行いました。

- ・男子、女子サウナ修繕工事
- ・脱衣所前及び男女脱衣所一部の床カーペット張替工事
- ・健康機器室前及び調理室の床修繕工事
- ・男女風呂場北側ガラス清掃及び網戸設置工事
- ・男女浴室内滑り止めタイル設置工事
- ・玄関カーペットの張替工事
- ・男女脱衣所敷物張替工事
- ・女子脱衣所カーテン工事
- ・食堂調理場の窓網戸設置工事
- ・リターン式更衣ロッカーの設置
- ・地デジ対応テレビの設置（脱衣所前、食堂）

利用者ニーズを適切に把握するため、9月にアンケート調査を実施し、要望に即した各改善を行うことにより、施設利用者の満足度に適切に対応しました。

社協広報誌「かけはし」に3回記事を掲載、ホームページ上に施設紹介のページを設け、施設の情報を提供することにより、利用者の増加に取り組みました。

小規模ボイラー取扱技能講習（1名）に参加することにより、専門知識を習得し運営体制を強化しました。

利用者の利便性を図るため、コミュニティバスの運行を行政に要望し、11月より運行の運びとなりました。また、温泉施設の利用料金の値上げについては行政に要望中です。

《課題》

長期休業により客離れが懸念されますが、4月にオープンイベントを企画、社協広報誌「かけはし」、ホームページ等の広報活動により利用者の増加に取り組みます。

今後、電気・重油価格の値上げが予想されるため、節電を徹底し効率的な管理運営に取り組み、経費削減に努めます。

施設の老朽化が著しく、経年劣化による修繕費が増大していますが、日常点検を強化するとともに、必要な修繕を適正に実施します。

食堂運営を外業業者に委託し、安定した収益の確保を目指します。

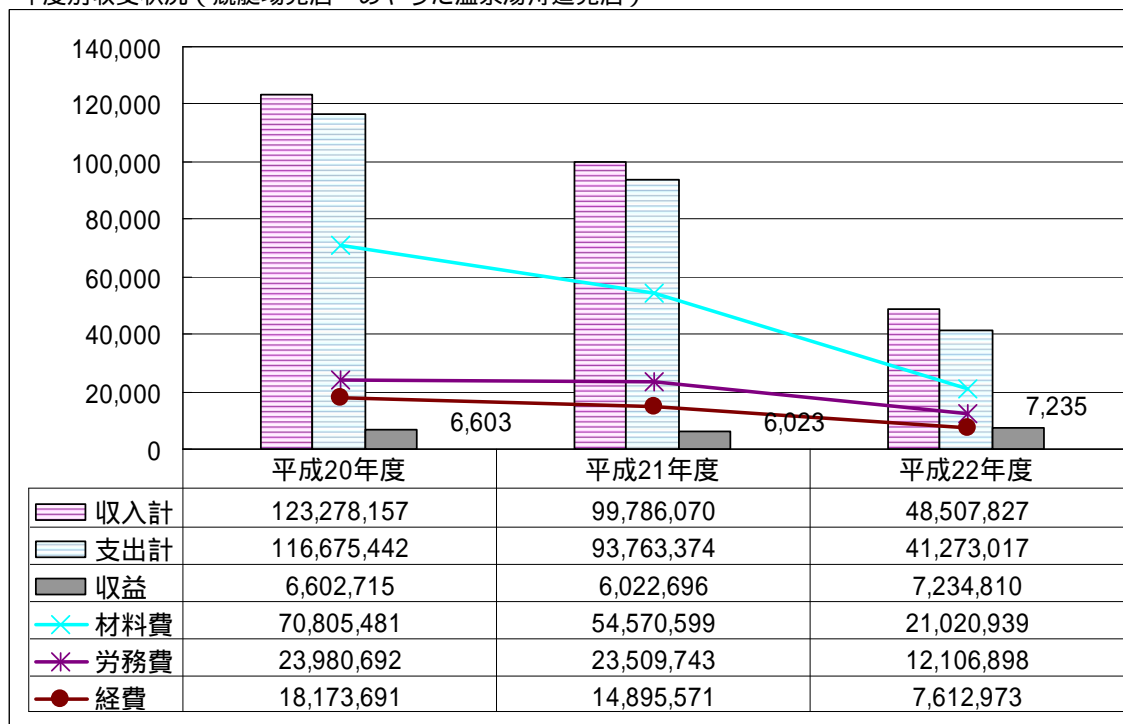
平成25年度から平成27年度（3年間）の指定管理者募集について、真摯に検討いたします。

10. 収益事業の充実

(1) 売店の効率的経営

丸亀ボートレース場内、あやうた温泉湯舟道で売店を営業しています。社会福祉事業に必要な自主財源を確保するため、継続的・安定的な運営を目標に事業を実施しました。

年度別収支状況（競艇場売店・あやうた温泉湯舟道売店）（千円）



（ただし、支出において、繰出金は除く）

《概説》

収益事業全体の状況を前年度と比較すると、収入面では51,278千円減（前年度比51%）となったものの、支出においては、コスト削減効果により、52,490千円減（前年度比56%）となり、収益は20%アップの7,234千円の黒字となりました。

本年度は、300万円を一般会計へ繰り出し、自主財源を確保しました。

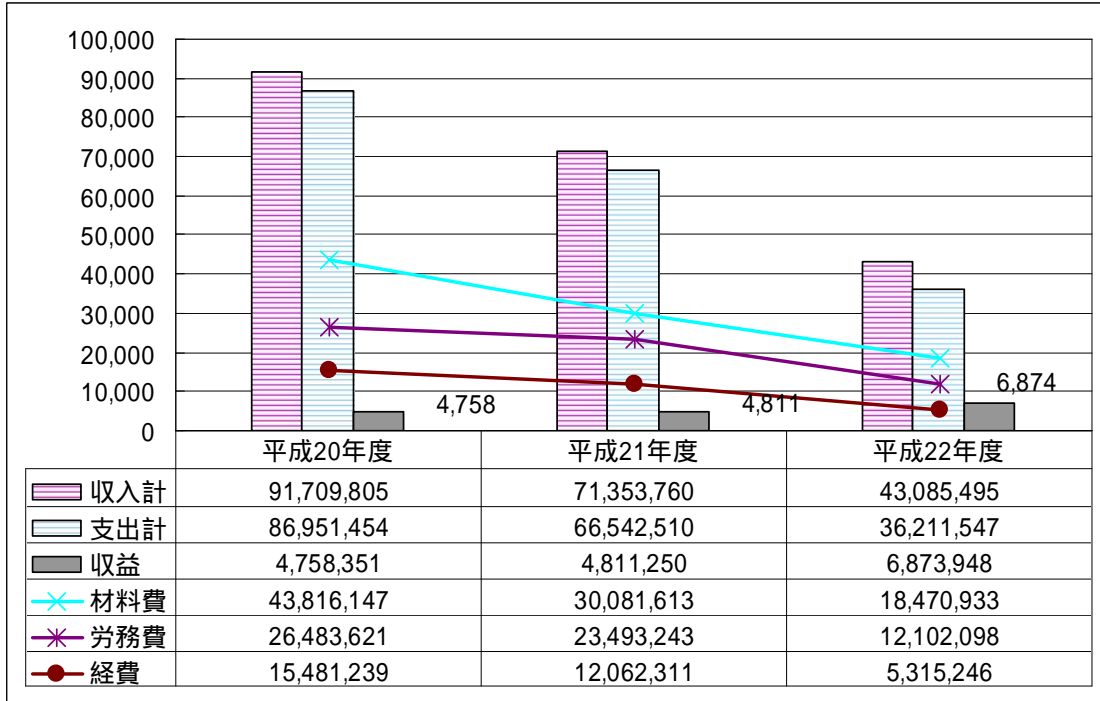
競艇場売店

本年度は丸亀ボートレース場施設改修工事のため、10月23日から仮店舗営業となり、効率的な経営を進めるため、事業を縮小して収益の確保に努めました。



年度別収支状況（競艇場売店）

（千円）



（ただし、支出において、繰出金は除く）

平成22年9月14日～10月22日まで改修工事による移転のため休業、また平成23年3月13日～3月31日まで東北地方太平洋沖地震により開催中止となり休業しました。

《効果》

雇用形態の変更や人事関連規則の見直しにより、人件費の削減と事務効率の向上が図られ収益改善できました。

仮店舗でのナイト営業では、収益性の低い「うどん店」経営を継続することは困難となり、販売品目の見直しを行い、屋台営業のみに変更しました。また、自動販売機の契約条件を再度見直し、収益力アップを図りました。

《課題》

10月より仮店舗営業を開始しましたが、来場者が思った以上に減少しており、今後もなお厳しい経営状況が続くことが予想されます。引き続き、勤務シフト、材料仕入れ、労務費等の見直しを行い、経費削減を図り収益確保に努めます。

平成24年の夏、丸亀ボートレース場新スタンドが完成予定のため、今後、新たな事業展開を目指します。

あやうた温泉湯舟道売店

《概説》

温泉施設内で売店を営業しています。指定管理と一体的な経営のため、営業範囲も限られるなか、4月から毎週月曜日、生きがいデイサービスへの昼食を開始し、収益改善を図り、僅かながら黒字を確保することができました。

来年度は、売店事業運営を外部業者に委託することにより、事務の軽減を図り、経営改善に取り組みます。

1 1 .社会福祉関係団体・運動との連携支援

(1) 共同募金運動並びに歳末たすけあい運動の実施協力

赤い羽根共同募金並びに歳末たすけあい運動は、社会福祉推進の財源として重要な役割を果たしており、関係団体や募金ボランティアの協力により大きな成果を得ることができました。

会議の開催と参加

運営委員会及び募金ボランティアへの説明会等を開催し、目標達成に向け役職員が一体となり関係団体と協力し運動を展開しました。

募金実績額

募 金 種 別	本年度			前年度		
	目標額(円)	実績額(円)	目標額に対する割合(%)	目標額(円)	実績額(円)	目標額に対する割合(%)
共 同 募 金	24,347,000	24,026,276	98.68	24,200,000	22,647,239	93.58
歳末たすけあい募金	9,100,00	6,196,760	68.10	10,000,000	8,852,837	88.53
合 計	33,447,000	30,223,036	90.36	34,200,000	31,500,076	92.11

本会の実施した事業

事業名	金額(円)	事業名	金額(円)
地区社協活動助成事業	2,470,000	障害者活動育成事業	80,000
防災資機材購入事業	1,190,000	亀山学園卒業生祝金	40,210
広報活動事業	2,422,447	困窮者支援事業	100,000
広報啓発活動事業(ホーム・ページ)	607,635	生活困窮世帯	3,320,000
子どもボランティア活動事業	385,829	在宅ひとり親児童	140,000
社会福祉大会開催事業	480,000	施設等見舞金等	1,865,660
災害テント購入事業	500,000	総合計	13,601,781

(2) 民生委員児童委員活動への協力

地域福祉の第一線にて活動する民生委員児童委員協議会連合会の事務局として、理事会及び主任児童委員の定例会の支援に努めました。

(3) 社会福祉関係団体等の活動支援

障がい者団体の活動支援

身体障害者福祉連合協会を支援し、障がい者相談をひまわりセンターにおいて開設し、行政、障がい者団体等と連携し、福祉活動の充実を図りました。

中学生徒弁論大会への協力

第61回丸亀市中学生徒弁論大会が6月9日に開催され、青少年育成事業へ積極的に参加した。また、児童健全育成の観点から、保護司会との協働で児童福祉の推進に寄与しました。

学生の実習受け入れ指導

県内外の大学より将来、社会福祉士として活躍することを志す学生を受け入れ、社会福祉援助技術現場実習の指導にあたりました。

また、有限会社イー・ドームより職業訓練生3名の受け入れを行い、社会人としての基本的な対応の指導にあたりました。一方、介護事業所では訪問介護員養成機関等より実習生を受け入れ、同行訪問による現場実習を行い、積極的に介護人材養成に協力しました。本年度は香川県シルバー人材センターをはじめ、7養成機関等より延べ39名を受け入れました。